

第9回あまがさき在宅医療介護塾の報告

10月21日(木) 18:00~19:50 第9回あまがさき在宅医療介護塾をZOOM ウェビナーで開催いたしました。

今回のテーマは『**コロナウイルス感染症第4波・第5波を通じて経験を多職種で共有し、今後に備える**』

参加者は、関係者を含め96名でした。

【報告会】 座長：尼崎市医師会 副会長 朝田真司

| | | |
|-------------------|-----------|------|
| ①尼崎医療生協病院 | 医師 | 島田 真 |
| ②はらクリニック | 医師 | 原 秀憲 |
| ③尼崎訪問看護ステーション | 訪問看護師 | 原田広美 |
| ④ショートステイローランド | 管理者 | 北上恭平 |
| ⑤社会福祉法人あかね | 課長 | 竹本勝則 |
| ⑥ケア・ワーク尼崎中央ステーション | 管理者 | 松本教資 |
| ⑦ケアマネセンターながお | 主任ケアマネジャー | 北村浩子 |
| ⑧尼崎市健康福祉局感染症対策担当 | 課長 | 田原正規 |

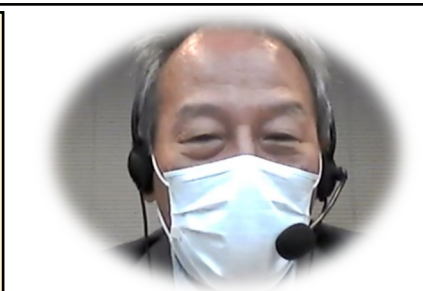
【多職種座談会】 テーマ：今後に備える

司会 尼崎市医師会 副会長 朝田 真司
パネラー 報告者

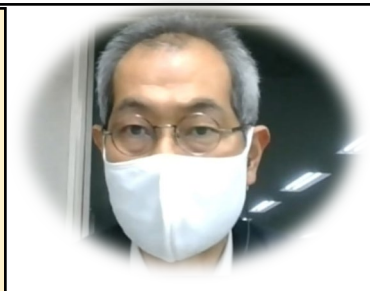


座長と多職種座談会の司会は、
尼崎市医師会副会長
朝田医院内科・循環器内科
朝田 真司 院長

はじめのあいさつは、
あまつなぎ統括医師
大隈病院
斎田 宏 院長



おわりのあいさつは、
尼崎市健康福祉局福祉部
富田 憲幸 部長



多職種座談会



朝田真司 医師



松本教資 管理者



島田真 医師



北村浩子 ケアマネジャー



田原正規 尼崎市



竹本勝則 社会福祉法人あかね



北上恭平 管理者



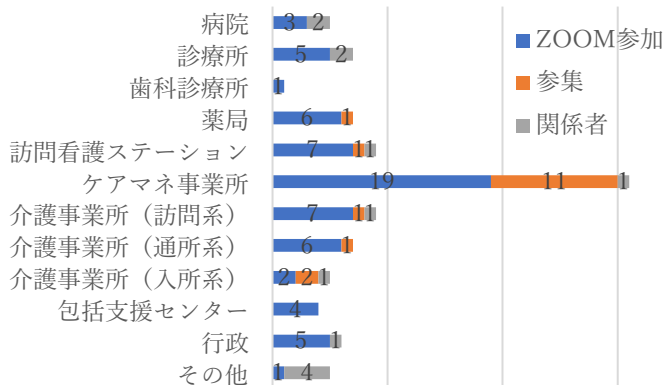
原田広美 訪問看護師



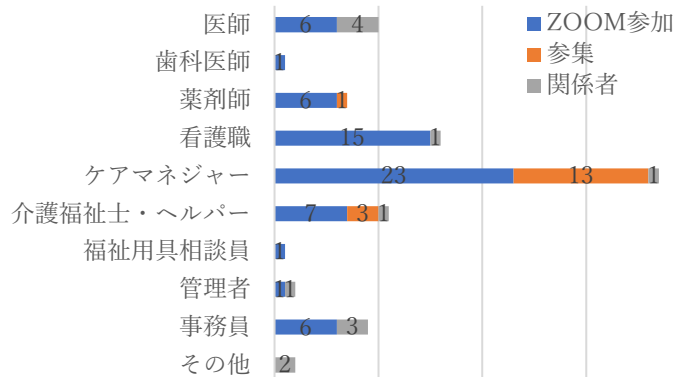
原秀憲 医師

参加者の属性

参加職場 関係者含め96名



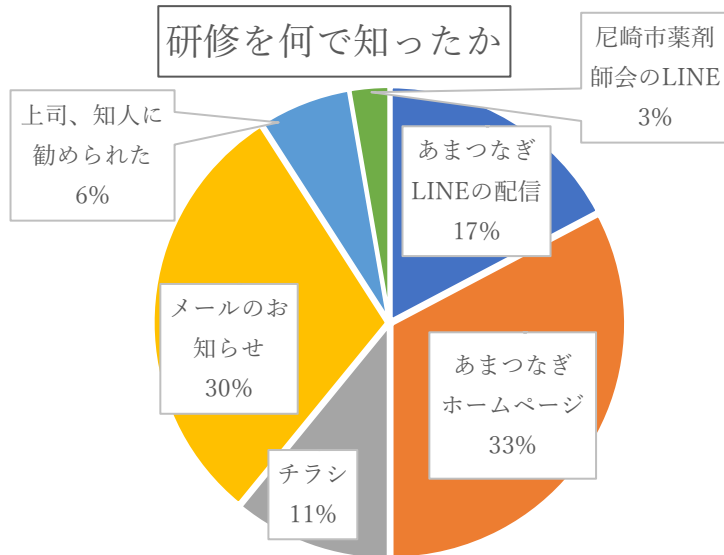
参加職種 関係者含め96名



アンケート結果

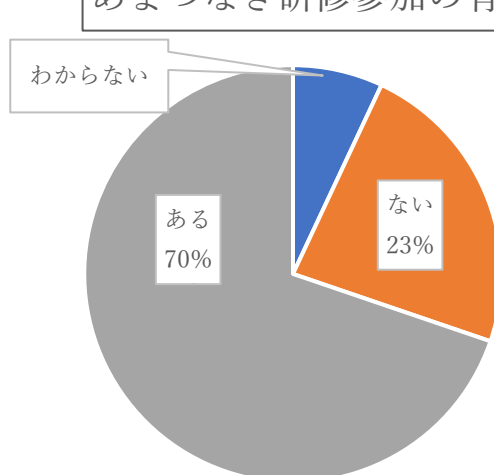
参加申込時のアンケート結果（申し込み 110 名）

研修を何で知ったか



研修終了後のアンケートにご回答頂きました。 回答率 52%

あまつなぎ研修参加の有無



*学んだことがあったと回答された方は98%でした

学んだ事

- 適切な情報の共有ができないとクラスターが発生し、大勢の人に迷惑がかかる可能性があることを再認識し、気が引き締まる思いになりました。（ケアマネジャー）
- 各事業所のコロナに対する取り組みや困りごと、課題を知ることができた。同じ事業をしている部分は新たな気づきを得ることができた。（ケアマネジャー）
- 第3波~第5波の特徴が整理できた 各職種での対応策考えも知ることができた（ケアマネジャー）
- 時間の経過により治療法が確立されていった流れがよくわかった。各職種の苦悩（看護職）
- 緊急時の連絡の難しさ。普段から、利用者さんと連絡が取れる手段を用意しておくことの大切さを学んだ。（薬剤師）
- 現時点での尼崎市におけるコロナ診療多職種連携の状況（医師）
- 他職種の個々の課題と実情がよく分かった（医師）
- 医療・福祉に関する各職種、それぞれの立場からのコロナへの考え方、連携の必要性が学べた。（事務師）
- 地域連携が必要である。また、情報共有の難しさ（看護職）
- 特に、尼崎市は阪神間で陽性者が多かったこと（事務職）

感想

- 大変貴重なお話をありがとうございました。使命感だけではどうにもならないことがたくさんあり、皆さん本当に悩まれたのだと知ることができ、自分自身の悩みを自身で受け入れることができました。これから、第6波が来たとしても、皆さんの経験とお知恵で、乗り越えていきたいと思いました。（薬剤師）
- 非常事態の中でも、生命倫理の原則について当てはめながら、患者を守られた先生の発表に感動しました。また、感染の経験をされた事業所の方だからこそ、困られている患者へ訪問が必要だと動かれたとの発表も素晴らしいと思いました。根拠に基づき冷静に判断しながら、患者を支援したいという熱い気持ちを持ち続け、今後も働きたいと思います。（看護職）
- コロナ対応を俯瞰的に知る事ができた。（事務職）
- とても勉強になりました。特に質疑応答の中でなぜ3日間は自宅待機が必要かについて（介護系職種）
- 各職種それぞれ対応に追われながら、今があると感じました。デイやショートなど、退院後すぐ利用は…と言われたこともあります。それぞれの施設さんの事情もあるのかなと思っていました。しかし原先生がおっしゃったように、どうしてその期間を持たないといけないか、感染症対策としてエビデンスがあるのか一緒に考えながら統一した答えが持てたら、利用者さんやそのご家族に説明ができると思いました。「何かあった時にどう責任を取ってくれるんですか」よくご家族さんから聞く言葉の一つでした。支援者同士はお互いさまと思えるのですが、そこにご家族の方も一緒に「お互い様だから」と言える尼崎市でありたいと思います。（ケアマネジャー）
- それぞれの現場でのコロナ対応の大変さ、情報収集の在り方、繋がり方など課題を実感できました（ケアマネジャー）
- 話を聞いてふと思ったのですが、ケアマネ協会に属するケアマネさん、ヘルパー協会に属するヘルパーさんは全体のどのぐらいなのでしょう？利用者さんは、情報が少ない、横のつながりのない事業者さんがどれかはわかりません。利用者さんが不利益を被らないように、皆さんが横のつながりをもてるように協会への加入率を上げる努力も必要だなと思います。医師の中にも地域連携に関して温度差がかなりあります。どのようにそれを埋めていけるか今後の大きな課題だと思っています。（医師）